



札医・道医は“喫煙率全国No.1 汚名返上” の一大キャンペーンを張ろう

中央区東支部 富澤明弘

いや～な汗をかいて、夜中に起きることが多くなった…。政策委員になってもうすぐ1年、ということは、任期の半分も終わっていないことになる。激動の医療改革期に運悪く就任したが、支部に報告する中央情勢は厳しいものばかり、対策も八方塞がり。その結果、今こそ結束すべき医師会から、逆に、会員の気持ちは離れていっているような気がしてならない。自分が悪い訳ではないが、関係委員としてなんとなく居心地が悪い。そうして、遂にオピニオンの順番がやってきて、締め切り間近…毛が抜ける。“何を書いてもいいですが、エッセイじゃありませんから。”と念を押されての初登板である。…いかん、このままでは、本当にエッセイで終わってしまう。

あわてて、タイトルであるが、「ああ、禁煙運動ね」と思わないでいただきたい。医師会の市民に対するイメージアップ、貢献度・好感度アップの戦略として行うのである。(で、ありますので、禁煙やその指導の重要性はもちろん理解しておりますが、この文は、今まで真摯に禁煙活動に取り組んでいた方にとって大変不謹慎な内容となりますので、あらかじめお断り、というか、お詫びしておきます) 医師会が市民と共にあり、市民の医療・健康を担い、リードし、守っていく団体であるという評価の獲得は危急の課題である。一昨年、混合診療反対を訴えた際、医師会の力だけでは十分でなく、署名運動など市民を巻き込んだ(名目上)導入阻止であったことは記憶に新しい。今後も医療制度改定が予想される中、政治的発言力を高める上にも“医者の特権を守る団体”から“市民の声を代表する団体”への脱皮が必要なのであ

る”。医師会が、日々、禁煙活動に取り組み、喫煙率ワースト1²⁾という不名誉³⁾な記録返上に挑み、市民のために頑張る姿が目され定着すれば、市民の協力・応援が得られ、大きな力となることだろう。

では、喫煙率全国一汚名返上キャンペーンが、どうして医師会のイメージアップの特効薬となるかであるが…。昨年、“交通事故死全国一”を返上したときの道警を好例にしたい。

① 結果が明らか：実質何%減とかでなく、また競争でもないのに、ワースト1にならないければ、最下位脱出というわかりやすい形で勝利宣言できる。各医師会が禁煙運動に取り込む中、これだけわかりやすく成果を強調できるのは最下位の我々だけである。

(喜ぶな)

② 目標が明らか：①と同様に、目標が明確なので、抽象的なものより運動を展開する上で団結しやすい。多くの人が参加でき広がりやすい。

③ 連携をとりやすい：誰もが望む健康がテーマなので、賛同が得やすい。これは、交通事故と同じ。道警も各種団体・NPOと協力している。医師会もこれにより更に多方面の団体・企業との関係ができるはずだ。

(このテーマなら、混合診療の時は見向きもしなかったマスコミも協賛してくるはずだ。露出度が飛躍的に上がる)

④ ニュースで取り上げられる：交通事故死…のときは、新聞1面・テレビ・ラヂオで取り上げられ、道警の誇らしげなコメント付きだ。無料で、しかも、宣伝効果は絶大だ。

- ⑤ リーダーシップがとれる：地方自治体なども活動する中、喫煙は病気である⁴⁾と認定された以上、中心となるべき団体は医師会で文句ないだろう。ワースト1返上の際のお立ち台を他に渡すのではづらい⁵⁾。
- ⑥ 継続が可能：きっと直ぐには達成できないから（おいおい…）長年やれば知名度も上がる。

更に喫煙問題を取り巻く環境であるが、これからますます注目を集めることは間違いないさそうだ。流れは2003年5月のWHOによる、たばこの広告規制と警告表示の強化・未成年対策を決めた“たばこ規制枠組み条例”に端を發し、今や世界的なものだ。中国ではタバコ広告と自販機が禁じられ、インドでは映画・テレビでの喫煙シーンが禁止された。全米PTAが喫煙シーンのある映画をR指定にするよう運動しており、今後我が国でも論議の機会は必至だ。日本では同じ年に“健康増進法”が制定され、公的施設での受動喫煙防止の努力規定ができた。これ自体に強制力はないが⁶⁾、関連して、各地で条例ができています。札幌市でも“ポイ捨て禁止条例”が8月から施行され、違反者には罰金が科せられている。効果絶大として制限区域の拡大が近々なされるとのこと。更に、4月から医師による禁煙指導を公的医療保険の給付対象とする案が厚労省から出ているし、7月にはタバコ税引き上げが決定している。裁判関係でも、強制吸引となるタクシー車内では全面禁煙が望ましいとの判決が出、今後多方面へ広がっていくだろう。…imagineしよう。これから喫煙に関する話題の度に札幌会長がコメントし、キャンペーンを訴える姿を…

ところで、札幌市（或いは北海道）医師会は何をすればいいか。一特に何もしなくていい。医師会は今までにも、講演やポスター、禁煙推進委員会、禁煙パレードなど精力的に行ってきたからだ。この活動のすべてに、“喫煙率全国一返上キャンペーン中”の枕詞を付けるだけだ。そして、世間に対し、関係諸団体・官公庁・マスコミに対し、協力要請という形で高らかに宣言すればいい。地元医師会が本腰を入れて

喫煙率全国一汚名返上に乗り出したと市民に浸透するまで叫び続けるのだ。では、キャンペーン成功の可能性は？…これは厳しい。なんせ、男性は5年連続、女性に至っては32年連続トップだと！統計²⁾によれば男女とも毎年30歳代の喫煙率が高くなっている。女性は更に20歳代も多いのが特徴。ワースト1脱出の鍵はこの年代が握っているが、健康に自信があり、ダイエット³⁾に関心があるこの世代には、心の問題⁸⁾もあって、キャンペーンガールにエビちゃん⁹⁾を起用するぐらいではビクともしないだろう。万が一、彼女たちを攻略できるとすれば、キャンペーンが盛り上がり、喫煙により発病する割合が女性に多いことや老化を早めるという、最近どんどん出てくる科学的データが広く知れ渡ること以外にないと思う。禁煙したい人、喫煙の有害性の知識が足りず吸っている人、その全てが禁煙でき、たばこを吸わない人が不快な思いをしない社会が来ることを切に願う。ただし、医師会は、スケープゴートを作って徹底的に排除する、そんな風潮に乗って、一部の良心的な愛煙家の反感を買わないよう注意も大切だ。

最後に、これだけ労少なく実多いウハウハ企画だが、障害が1つある。WHOは禁煙運動を進める上で範となるよう全職員の喫煙を禁止した。札幌も大々的にキャンペーンするとなると、理事あたりまでは喫煙禁止だな、こりゃ。理事の先生に愛煙家がいらっしやるか存じ上げませんが（確かあ、…）。これが没になったら、抵抗勢力がいたんだなあ…か、ホントに誰も読んでないんだオピニオン、と勝手に思うことにしている。

注釈1)：もちろん、今までも、会員は市民の健康を誠実に希求し、政治圧力団体というイメージは一部マスコミによるものであろうが

2)：JT（日本たばこ産業）の調査による

3)：なぜ喫煙率が高いと不名誉か。先進国では、経済的に貧しい、知識層が少ない地域に喫煙率が高くなる傾向があり、更に、女性においては、歴史が浅く慣習や周囲の目を考えないことが原因、とある

4)：たばこを吸うのはニコチン依存症と関連疾患からなる喫煙病…日本循環器学会等合同研究班

5)：交通事故死…の時も取り上げられたのは道警だけだ

6)：更に強化を求める声が上がっており、早晚話題になるだろう

7)：たばこはダイエットには効果があるとい

う。タバコをやめると食欲が出るから太るのでなく、吸収や代謝への影響がわかってきている

8)：寂しさを紛らわすため、というような

9)：蛭原有里、20代女性に圧倒的影響力を持つカリスマモデル

(本田眼科)